

平成28年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- ①『あいさつ自分から』を合言葉に、進んで挨拶する生徒を育てる。 ②心の通い合う教育活動を展開し、自尊感情を高め豊かな
 ③基礎・基本の学力定着を図り、それらを活用する能力を育てる。 ④家庭・地域との連携を密にし、地域に信頼される学校を創

学校教育に関する重点取組

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる (1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
(1) 授業改善アドバイザーの積極的な活用を図って、特に初任、中研の授業力の向上をめざした。また年2回校内研究授業や校外教科会への積極的な参加をしていった。朝学習や毎日の宿題などを通して、家庭学習の習慣化に取り組ませることが出来た。 (2) 通常学級において支援を要する生徒が増えて現状において、校内生徒支援やSSWを積極的に活用していくことと、学校全体で情報共有し、個に応じた指導法を心がけていった。	(1) 6月の中3実力テストでは、本校の平均は市内平均と比べ、下回っている。より一層の学習規律の確立、家庭学習の習慣化をはかり、基礎学力向上と公立高校の新通学区域に対応できる学力を身につけさせていく。(毎日の宿題と、テスト前の放課後学習、eライブラリの活用) (2) 特別な支援を必要とする生徒の、小学校での様子や指導した経過を情報交換していく。	

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る (1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
(1) 道徳の時間を確保し、一斉道徳(年2回)などを実施出来た。 (2) 「時を守り、場を清め、礼を正す」を生活の基本とし、生徒指導上の問題行動には初期対応を素早く、丁寧に行えた。 (3) 長欠、不登校生徒に対して、SSWを中心とした支援体制を確立させ、個に応じた指導体制を確立していき、関係機関とのカンファレンスを積極的に計画、実施、連携をしていった。 。	(1) 本校の特色ある教育である環境教育や、体験学習を通して、「命の尊さつながりを学ぶ環境教育」をテーマに、この基本理念の再確認および学校教育活動全体での位置づけ等再構築していく必要性があると考えられる。 (2) 不登校生の中に別室登校できる状態なる生徒がいる反面、新たな課題を抱えた不登校生が出てきているのが現状である。働きかけているが難しい状況もある。引き続き対応していきたい。 (3) 今年度11月には生徒、教職員、保護者に対して講師を招いて人権教育を実施できた。これからもより一層深めていく必要がある。	

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
(1)今年度も引き続き市のヘルスアップ事業を取り入れる。中学校弁当も朝の食券販売等、市の施策とも関連づけ食育を通じた食事のあり方について生徒たちに考えさせていくことが出来た。養護教諭と家庭科教員が計画を立て、健康教育を行っていった。 (2)「早寝 早起き 朝ご飯」を朝礼や学級活動で繰り返し指導し、健康な一日の過ごし方を示すことを通じて体力・運動能力の向上を引き続き図っていった。	(1)食育に関しては、生徒に対して指導できているが、朝食を「ほとんど毎日食べている」と「だいたい食べている」で生徒が第2学年生徒では87%(第2学年生活実態調査より)であり、「食べている」と「どちらかと言えば食べている」と第3学年でも87%(第3学年全国学力学習状況調査より)となっている。これからも学校だよりやPTAの力も借り宣伝したい。 (2)第2学年生徒は12時以降の就寝となる生徒が50%近く(第2学年生活実態調査より)で、夜型の生徒がまだ多くみられる。第3学年では、決まった時間に寝ていない生徒生徒が30%近くいる。(第3学年全国学力学習状況調査より)体力面でも心配である。規則正しい生活習慣は、全てに先んじて大切であることを保護者にも伝えていく。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
(1)学校施設、通学路における危険箇所等の確認を随時行い、発見すれば、その日のうちに改善していった。 (2)「学校は地域の防災拠点であり、地域の子どもの命を守る使命がある」という認識のもと、教員は常に危機意識を持つこと、生徒には、年2回の防災訓練を通じて、とっさの行動力と自分の命は自分で守る意識を身につけさせることが出来た。	(1)職員全体で、校舎内だけではなく、屋上庭園、ベランダ等も意識し、何かあれば校務員さんを中心に対応し、校内の危険箇所をなくすよう心がけている。通学路に関しては、工事等あれば生徒に伝えるなど危険回避を心がけている。 (2)新しい方針での『災害マニュアル』も検討しつつ、年度当初に職員全体で確認しあっている。 ・日常身の周りの整理整頓にも心がけさせている。	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る		
取組とその成果	課題と改善策	
(1)教員の年齢層が、昨年度以上に完全に二分化している現状の中で、ベテラン層から若手へのしっかりとした指導と行うことで、全員が学校全体を見る視点を養うように働きかけた。 (2)体育大会の土曜日開催等、成良中学校として、今まで以上に地域に開かれた学校をめざし、行事の様子などをHPの更新を行うことで広報していくことが出来た。	(1)年齢層にとらわれることなく、学校全体を見ていくにあたり各自が目的意識をしっかりともち活動させたい。学校行事には多くの保護者や地域の方が来てくださり、応援団になってくださっている。今後とも地域へも積極的に出向いていきたい。 (2)地域の学校として連携を密にしていけるためにも、朝礼や学活等の時間を中心に生徒に伝えともに考え、今後も、環境改善活動と社会貢献活動を続けたい。	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	3
取組とその成果	課題と改善策		
(1)「自学自習 共汗共生 敬愛慈恕 文化創造」の精神で、環境教育や命の教育など、特色ある教育を実施していった。 (2)今まで活動を中心に推進した教員が異動する中、学校が組織的に特色ある教育活動を継続していけるよう、担当者と担当部署を明らかにしていき取り組んで行った。	(1)ユネスコスクールとしての活動を意識することを中心に、尼崎市河川清掃事業(清掃活動)、甘いも奉納祭(地域行事)、募金活動等に参加していくことで、社会貢献となることや自己肯定感の醸成につなげていく。 (2)中心的な教員が異動し、活動の精選が必要となった。学校教育全体の位置づけを再構築していくことで、持続可能な活動となるよう、同じ形で継続できないものは整理していくなど取り組んで行く。		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3
取組とその成果	課題と改善策		
(1)(2)研究テーマは「自ら考える場面を設定し、活用・応用できる能力を身につける」と設定した。自ら考える時間を授業の中に入れ込み、発表できる力につなげたい。アクティブラーニングを推進し、公開授業も実施した。	(1)(2)基礎学力の定着に時間がかかり、例えば生徒間で話し合う場面など応用力をつける活動を取り入れることが十分にできていない。今後積極的に取り入れるよう働きかけをおこなっていく。		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		